No. 181

長文読解 ULTIMATE CHEAT SHEET

スラッシュリーディングの区切り方20ルール

英文を意味のかたまり(チャンク)で区切り、英語の語順のまま前から理解する。どこで切るかの20ルールを、区切った例文つきで。

Web版はこちら

ここだけ3行

1 長い主語の後、前置詞・接続詞・関係詞の前で切る

2 区切ったら前から順に意味をとり、後ろから訳さない

3 慣れたら区切りを大きくし、最後は頭の中だけで切る

◆ 基本の8ルール:まずここだけ 8

例文の下は「前から読む訳(直読直解)」。日本語として不自然でも、英語の順に意味をとる。

☐ 1 長い主語の後

修飾語がついて主語が長い時は、動詞の前で切る。どこまでが主語かが一目で分かる。

> The students in my class / enjoy the new English lessons.
> 私のクラスの生徒は／楽しんでいる、新しい英語の授業を

☐ 2 前置詞句の前

in / on / at / for / with / during などで始まり、場所・時・手段などを表すかたまりの前で切る。※depend on など動詞と一体のものは切らない。

> She studied / in the library / for three hours.
> 彼女は勉強した／図書館で／3時間

☐ 3 従属接続詞の前

because / when / if / although / while / after など、文と文をつなぐ接続詞の前で切る。

> We stayed home / because it was raining.
> 私たちは家にいた／雨が降っていたので

☐ 4 文をつなぐ and・but の前

and / but / or が2つの文をつないでいる時は、その前で切る。語と語をつなぐだけなら切らない。

> He called her twice, / but she didn't answer.
> 彼は彼女に2回電話した／しかし彼女は出なかった

☐ 5 関係代名詞の前

who / which / that(関係代名詞)の前で切り、前の名詞を説明するかたまりと考える。

> I met a woman / who speaks five languages.
> 私は女性に会った／その人は5つの言語を話す

☐ 6 不定詞 to do の前

目的(〜するために)・名詞の説明(〜するための)など、to do のかたまりの前で切る。

> She went to Canada / to study environmental science.
> 彼女はカナダへ行った／環境科学を学ぶために

☐ 7 名詞を後ろから説明する分詞の前

名詞+doing / done で分詞が名詞を説明している時は、分詞の前で切る。「どんな名詞か」の説明が続く。※I saw him running の running(補語)は別。

> The boy / playing the guitar / is my brother.
> その少年は／ギターを弾いている／私の弟(兄)だ

☐ 8 that節(名詞節)の前

think / say / know / show / believe that 〜 の that の前で切る。that が省略されても同じ位置で切る。

> Research shows / that sleep improves memory.
> 研究は示している／睡眠が記憶をよくすることを

◆ 中級の8ルール:文の形で切る 8

☐ 1 文頭の副詞句・前置きの後

In 2020, / However, / According to 〜, など、文の前に置かれたかたまりの後で切る。

> According to the survey, / most teens own a smartphone.
> その調査によれば／ほとんどの10代はスマホを持っている

☐ 2 分詞構文の前後

doing / done で始まり、カンマで区切られたかたまりは独立した1チャンク。

> Walking along the beach, / I found a beautiful shell.
> 浜辺を歩いていて／私は見つけた、美しい貝殻を

☐ 3 疑問詞・whether 節の前

know / wonder / ask の後の what / how / why / whether 〜 の前で切る。

> I don't know / why she left so early.
> 私は分からない／なぜ彼女があんなに早く出ていったのか

☐ 4 関係副詞・前置詞+関係代名詞の前

where / when / in which / by which の前で切る。場所・時・方法の説明が続く。

> This is the town / where I grew up.
> これは町だ／私が育った

☐ 5 挿入の前後

カンマやダッシュで挟まれた , however, / , I think, / — and this is important — は、前後で切って一度脇に置く。

> The plan, / I believe, / will succeed.
> その計画は／私が思うに／成功するだろう

☐ 6 同格の前

名詞の後のカンマ+名詞、the fact / idea / news that 〜 の that の前で切る。前の名詞の中身が続く。

> The news / that he had won / surprised everyone.
> その知らせは／彼が勝ったという／皆を驚かせた

☐ 7 比較の than・as の前

than / as 〜 as の後半の前で切る。何と何を比べているかが見える。

> Cycling is often faster / than driving / in big cities.
> 自転車のほうがしばしば速い／車で行くより／大都市では

☐ 8 形式主語 it の真主語の前

It is important(easy / true など)to do / that 〜 では、to / that の前で切る。そこからが本当の主語。※It is A that 〜 の強調構文(下)とは区別。

> It is important / to get enough sleep.
> 大事だ／十分に睡眠をとることが

◆ 上級の4ルール：切りすぎない 4

☐ **1 強調構文の that の前**

It is A that ～ は、A の後（that の前）で切る。A が強調されている部分。

> It was in Kyoto / that they first met.
> 京都でのことだった／彼らが初めて会ったのは

☐ **2 コロン・セミコロン・ダッシュの後**

記号の位置は大きな区切り。コロンの後は説明・具体例、セミコロンは関連する2文をつなぐ、ダッシュの後は補足が多い。

> She had one goal: / to become a doctor.
> 彼女には1つの目標があった／医者になること

☐ **3 短いまとまりは切らない**

冠詞＋形容詞＋名詞（a very old house）、句動詞（look forward to）、be able to などは1つのかたまり。切ると意味が壊れる。

> We are looking forward to / the summer festival.
> 私たちは楽しみにしている／夏祭りを

☐ **4 慣れたら区切りを大きく**

最初は細かく、慣れたら「主語／述語／修飾」の3～4チャンクに。最後は鉛筆を使わず、頭の中で切りながら読む。

> The new library near the station / has become popular / among students.
> 駅の近くの新しい図書館は／人気になっている／学生の間で

◆ 実演：1文を細かく→大きく

段階	区切り方
初級（細かく）	Students / who read a lot / in their free time / tend to write better essays / than those / who do not.
前から読む訳	学生は／たくさん読む／自由な時間に／よりよい作文を書く傾向がある／人たちより／そうしない
上級（大きく）	Students who read a lot in their free time / tend to write better essays / than those who do not.
ふつうの和訳	自由な時間にたくさん読む学生は、そうしない学生よりよい作文を書く傾向がある。

◆ 実演：難しめの1文

段階	区切り方
区切り	What surprised the researchers / was the fact / that the plants grew faster / in the dark.
前から読む訳	研究者たちを驚かせたのは／事実だった／植物がより速く育ったという／暗い所で
ポイント	What ～ の長い主語の後、同格の that の前、前置詞句の前で切る

なぜ効く？

なぜ区切ると読める？ 人が一度に頭にとどめておける情報の量（作業記憶）は限られている。単語をばらばらに覚えておくより、意味のかたまりにまとめる（チャンク化）ほうが、同じ容量で多くを保てる（Miller 1956 がチャンクの考えを示した）。区切って前から意味をとっていけば、後ろから訳すために文全体を抱え込む必要がなくなる。

◆ 練習の進め方 5

1. **精読して意味を確認**
   まず文構造と意味を確認した英文を使う。意味の分からない英文に線を引いても練習にならない。
2. **スラッシュを書き込む**
   上の20ルールで区切る。迷ったら「その位置で一息つけるか」で判断。
3. **前から日本語にする**
   チャンクごとに前から意味をとる。後ろの語から訳し上げない。
4. **音声に合わせて読む**
   モデル音声の区切り（ポーズ）とスラッシュを比べる。音声のポーズは意味の区切りと重なることが多い。
5. **スラッシュなしで読む**
   同じ英文を、線のないコピーで読む。最終目標は初見の英文を頭の中で区切ること。

◆ 区切りのNG 4

☐ ✕ ~~a / very / old / house と1語ずつ切る~~
○ **a very old house で1チャンク**
細かすぎると単語を拾うだけになる

☐ ✕ ~~look / forward to と句動詞を割る~~
○ **look forward to でひとまとまり**
句動詞は全体で1つの意味

☐ ✕ ~~区切った後、後ろから訳し直す~~
○ **チャンクごとに前から意味をとる**
返り読みが減らず練習の意味がない

☐ ✕ ~~いつまでも線を引いて読む~~
○ **慣れたら頭の中だけで切る**
本番で線を引く時間はない

◆ 確認テスト

1 The man who lives next door is a doctor. 最初に切るのは？
a door の後　b a の後　c man の後　d next の後

2 It is easy to forget names. 切る位置は？
a It の後　b easy の後　c is の後　d forget の後

3 I think that she is right. どこで切る？
a 切らない　b she の後　c think の後　d is の後

4 切ってはいけない位置は？
a to不定詞の前　b look と forward to の間　c because の前
d 主語と動詞の間（長い主語）

◆ 解答

1 man の後 関係代名詞 who の前
2 easy の後 形式主語の真主語 to の前
3 think の後 that節の前
4 look と forward to の間 句動詞は1つのかたまり

参考資料 Miller, G. A. (1956). The magical number seven, plus or minus two: Some limits on our capacity for processing information. Psychological Review, 63(2)